

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胆管癌組織における Wilms Tumor 1 (WT1)分子の発現と生物学的特性の解析
	研究目的	背景)胆道癌は我が国の癌死亡数の第 6 位をしめている。胆道癌は外科切除術のみが根治を期待できる治療法であるが 50%以上の患者が初診時にはすでに切除不能であり、切除可能例もその6-7割は術後早期に再発する。切除不能・再発胆道癌に対する標準治療は全身化学療法(GC療法)だが生存期間中央値は1年弱と予後不良である。WT1 遺伝子は、小児の腎腫瘍である Wilms 腫瘍の原因遺伝子の1つとして単離された遺伝子である。WT1 タンパクは様々な固形癌においても過剰発現が認められ、免疫療法の標的として期待されており、切除不能・再発胆道癌を対象としたゲムシタピン+CDDP+WT1 ペプチドワクチン併用化学や治癒切除後の膵臓癌および胆道癌に対する補助療法としてのWT1 および MUC1 ペプチドパルス樹状細胞ワクチン療法に関する臨床試験が国内で実施されている。 意義,必要性)上記理由により、予後不良な切除不能・再発胆道癌に対する有効な非切除療法が開発されれば、多くの患者に利益をもたらすことができると期待される。胆道癌においても約 8 割の症例で WT1 タンパクの過剰発現が報告されており、本疾患における WT1 ペプチドワクチンの有用性を明らかにすることは重要と考えられる。 目的 期待される成果) 胆道癌組織における WT1 分子発現頻度を解析し、WT1 分子が胆道癌免疫療法の標的となりうるかどうかを検証する。WT1 分子発現と臨床病理学的情報(特に予後)との相関を明らかにする。
	研究期間	2016年6月23日から2025年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理についての責任者	研究責任者	森永聡一郎
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし